

全国知事会の国保税軽減のため 「公費1兆円増やせ」要求は当然

上越市議会でも国民健康保険税負担をめぐって議論が行われていますが、いま、国保税は高すぎる。協会けんぽ並みに下げよ、という声が強まっています。

こうしたなか、全国知事会などの団体が、ここ数年、政府・厚労省に要請している、国民健康保険制度維持のためにも公費の投入を1兆円増やすべきだとの提案が再び注目されています。

全国知事会のホームページに紹介されている政府への要請内容の一部を紹介しましょう。以下は平成26年7月の同会の提言の一部です。

「国民皆保険制度の最後の支え手である国保を将来にわたって持続可能なものとする

ためには、国保の被保険者の負担が限界に近づいていることを踏まえ、『あるべき保険料水準』について十分議論した上で、極めて高い被用者保険との保険料負担の格差をできる限り縮小するような、抜本的な財政基盤の強化が必要である」

こうした提言にもかかわらず、国は、被用者保険との保険料負担の格差に係る議論を十分に行わないばかりか、未だ構造問題解決のための具体策を明らかにしていません。ここが問題ですね。

季節外れの雪に戸惑い。ブルも出勤

4月に入ってから降雪が続いています。山間部では30センチ以上降って、ブルが何回も出勤したところがあります。下の写真は名立区東飛山です。地元の方から写真を提供していただきました。

雪が少なく、もう雪が降ることはないだろうと、普通タイヤにはき替えた人も少なくありません。大慌てで、再びスノータイヤにした人もあります。

雪になったことで花見のイベント日程を変更するなどいろんなところに影響が出ています。

そうした中、市の雪情報は冬季限定となっているので、ホームページにはまったく掲載なし。「観測体制の問題もあるのだろうけれど、簡易な方法でもいいから市内各地の雪情報が欲しい」という声も出ています。



今年も「地域づくりフォーラム」開催

「まちづくり吉川」などが主催した「よしかお地域づくりフォーラム」が3月31日、吉川コミュニティプラザで行われました。吉川区内外から50人ほどが参加しました。

このフォーラムは少子高齢化が進む吉川区内の「少しばかりの努力、体を動かすなかで、自慢できる取組を紹介し、交流する」（主催者あいさつ）会です。

市の高齢者支援課の細谷早苗副課長（当時）が介護支援と地域づくりの取組を報告、さわか福祉財団の鶴山芳子さんが「みんなでつくり助け合いのまち」と題して講演しました。

その後、「越後やったれ祭り」や地域づくり会議の活動、集落づくり推進員の活動などが報告され、交流しました。

こういう取組はこれからの地域づくりを進める上で大事なことだと思います。



【キクザキリュウキンカ】キンポウゲ科の多年草。漢字で「菊咲立金花」と書きます。2月～4月に黄色い花を咲かせます。花言葉は、「会える喜び」。吉川区東田中にて3月29日、撮影しました。



はしづめ法一の
活動レポート

No.1904 2019.4.7
発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL http://www.hose1.jp/

ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一 検索

春よ来い

第五五二回 まあ、どうしるだ

二月二十七日。母は九五歳になりました。一日一日、積み重ねて三六五日経つと、誰でも一つ年をとるのですが、九四歳を迎えたときは違った重みを感じました。

母の誕生日の数日前、連れ合いから、「ばあちゃん、誕生日、ケーキでも一緒に食べない」と言われていました。「そうだね」と返事をしていました。注文したのは前日です。急な注文でしたが、地元の小浜屋菓子店さんが応えてくださいました。

二七日の夕方、小浜屋さんへ行くと、すでに出来上がっていました。九五歳ですから、ケーキにさすローソクは、本来ならば九五本ということになるのでしょうか。でも、それだけの本数をさすのはたいへんです。お店の人と相談して、一〇本、用意していただきました。

母を囲んで、みんなでケーキを食べる時間は午後七時から。二時間近く時間がありませんでしたので、とりあえずは、母の居場所と成っている居間に持っていくことにしました。コタツのテーブルの上にケーキをのせたところ、母は、「まあ、どうしるだ」と言っていて喜んでくれました。

午後七時過ぎ、母の誕生日を祝う会を始めました。連れ合いがケーキにローソクをさしたところで、母は、「これ、どうしるだ」と聞いてきました。それに答え、みんなでおなじみの誕生日の歌を歌うことになりました。ローソクに火をつけてから、

♪ハッピーバースデートゥーユー、ハッピーバースデートゥーユー……。
歌を歌いはじめると、母も手拍子をしながら歌いました。おそらく、ディサービスで何回も誕生日をやってもらっているのでしょう、慣れた感じで歌いました。
「ハッピーバースデーディアばあちゃん、ハッピーバースデートゥーユー」と歌い終

えたところで、ローソクの火を消す場面がやってきます。誰かの声かけで、母は息を吹きかけましたが、なかなか消えてくれません。四、五回、「フー」とやって、やっと消えました。母の息の吹きかけが、いまひとつ力強さに欠けていたので、ひよっとすると咳き込むのではと思ったのですが、それは大丈夫でした。

さて、ケーキを分けて食べる段になって、改めてケーキを見た母が言いました。「これ、小浜屋んしょ、作ったがが。でっけえない。こりゃ、もうしゃけねー」

ケーキは五人分。一番上には赤くて、大きなイチゴが六個のせてあります。これがまた存在感十分でした。家族の者に、「ばあちゃん、どれ食べる」と聞かれた母はすく、「イチゴがいい」と答えました。ケーキの中にはマンゴウだか、黄桃だかわかりませんが、黄色い果物も入っていました。これもおいしい味でした。

切り分けたケーキの二つを母の皿の上のせると、母はすぐに食べ始めました。「ほんに、おいしいがど」そう言って、喜んでいました。ただ、母のところへ分けたケーキが少し大きすぎだったのでしようか、母は食べるのに苦労し、「一度に食べらんねえな」と言っていました。

母の誕生日にみんなでケーキを食べたのは、昨年続き二度目です。驚いたのは、歌を歌っている時の母の表情が子どものようにうれしそうだったことです。電動椅子に座った母は、手をたたき、笑顔いっぱいでした。まるで、これほどうれしいことはない、そんな表情をしていました。

ケーキを食べている時も、母は小さな子どものように嬉しそうでした。手や上着の一部にクリームをつけてニコニコしています。私はイチゴをも一つ、母にあげました。

大口満絵画展

毎年恒例となっている大口満絵画展（会場は大島画廊）へ行ってきました。今回も海辺、里山、裸婦など多くの分野の作品が展示されていました。

今回、私が惹きつけられた絵のひとつは雪が降った後の青空が広がった風景です。4月になって雪が降ったことが影響したのかも知れません。

雪が降った後に青空が出たときのうれしさ、年がいくつになっても変わりませんね。



大口先生の個展の特徴は、教え子の人たちがいつもかけつけることです。今回もたくさんのお客さんが来場し、「先生の絵に会えると元気が出ます」「冬の絵が静かなのに、温かくて、きれいです」などの感想を寄せています。

大口満絵画展は、きょう7日までです。まだの人はぜひご覧になってください。



種籾（たねもみ）の浸水風景。今週にはすじ播きも行われますが、天候が心配です。写真は大島区の竹平生産組合。

ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	3月27日(水)	4月3日(水)
上越南消防署	0.053	0.047
上越北消防署	0.040	0.053
新井消防署	0.050	0.047
頸北消防署	0.047	0.047
頸南消防署	0.053	0.050
東頸消防署	0.050	0.050
高士分遣所	0.050	0.047
名立分遣所	0.053	0.053